

この学校にわたしたち

2023. 12. 18 NO 47

2学期も有難うございました！

職員の1人が時々、校内メールで職員全員に「終業式まであと〇日です」と送ってくれます。これは冬休みまでのカウントダウンではなく、職員に「授業や校務の進捗に気をつけて頑張りましょう」という励ましのメッセージです。先週、ついにこの〇日が一桁となってきました。思い返せば、2学期も運動会、社会見学、修学旅行、遠足(1・2年)、鼓笛パレード、ハッ山地区文化祭、にこキラ集会…とたくさんの行事がありました。私はこれらの行事に取り組むことで子どもたちが大きく成長していることを実感しています。学校教育といっても学校だけで行えるものではありません。特に近年は文部科学省も「地域とともにある学校」「地域学校協働活動」という言葉を繰り返し使いながら、学校と地域(保護者)が協働しながら、学校教育を進めていくことを求めています。

そういった意味におきまして、2学期も地域・保護者の皆様にはハッ山小学校の学校教育を常に温かく見守っていただき、また、ご支援いただきましたことに深く感謝申し上げます。

話は変わりますが、明治大学教授の斎藤 孝先生は自身をかつて飽きっぽい性格で、何とか直そうと「ねばる」という言葉をテーマにして努力した結果、少しずつ改善したと言います。斎藤先生は「人の行動は動詞で変わる」という風に考えます。年が変わると“今年の目標は?”とよく言われますが、確かに目標にするのは「毎日、日記をつける」など動詞が多いように思います。私も今から来年の目標(テーマ)をじっくり考えていきたいと思えます。

令和6年もどうぞ皆様にとって幸多き1年でありますよう、そして学校教育につきましても本年同様、ご理解・ご支援を宜しく願います。

教師は子どもに叫んでもらえる存在に…

若い頃(今も若いつもりですが…)先輩教員に「教師は(例えば自分が運動場にいた時に)子どもに窓から〇〇先生～と叫んでもらえるくらい子どもから信頼される存在にならなくてはならない」と教えてもらったことがあります。そういう存在になっているかは分かりませんが、その言葉を心にとめ、今も教師生活を送っています。このことは私が関わる教職員もそうであってほしいと思っています。以前、私は校長会から帰った時に給食の揚げパンが私の机の上においてあって嬉しかったと学校だよりに書いたことがあります。先日は、もっと嬉しいことがありました。この時は津市校長会の会議が延長し、食事もとらずに学校に帰ってきて14時前でした。5限目が始まっており、急いで子どもたちの顔を見て回ろうと1年生の教室に行きました。そうしたら、1年生の数名の子どもが大きな声で「こうちょうせんせい～やっとなえた～」とロクに言ってくれました。私は子どもたちのその素直な心と言葉に感激しました。「勤務時間やクレーム対応、心身の病…などで教師は大変だなあ」とよく友人に言われますが、教師をやっているとそれ以上に素晴らしい瞬間に出会えることも多いのだといつも伝えています。子どもたちの純粋な心はご家庭のおかげです。